

基礎評価シート(平成29年度実績)

		担当部課等名	都市部 生活環境課		
基本構想	環境と風景が息づくまちづくり	重点的方針	2-1 二宮を知り、二宮に触れ、二宮を体験できる環境づくり		
分野別方針	環境、防災	実施計画事業	環境保全推進事業(No.47)		
予算等事業名	環境保全推進事業				
目的	二宮町の自然、社会環境を生かしながら、将来に残したい環境の保全や創出に向けて、町民・事業者・町が一体となって取り組むため、環境基本計画の進捗状況等を把握、評価し、計画を推進する。				
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・環境審議会の運営 ・墓地検討 				
根拠法令・条例等					
体制	<input type="checkbox"/> 町職員実施	<input type="checkbox"/> 一部委託あり	<input type="checkbox"/> 全部委託	<input type="checkbox"/> その他	

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか					
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している		<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている	
			<input type="checkbox"/>	③ 未実施	
②、③に対する理由					

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか					
<input checked="" type="checkbox"/>	① 検討できる		<input type="checkbox"/>	② 削減は困難	
理由	環境審議会会長(講師)の委嘱切換えに伴い報償費(講師謝礼)の減額を検討することが可能。ただし、30年度は後期実施計画の策定に伴う開催回数増により一時的に増加。				

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか					
<input checked="" type="checkbox"/>	① 検討できる		<input type="checkbox"/>	② 効率化は困難	
理由	環境基本計画進捗状況管理のデータベース化と評価方法の標準化による効率化を検討することが可能。				

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)					A
	【説明】 環境基本計画は中期実施計画において、事業が精査され一部事業を統廃合するなど効率化が図られている。 墓地の経営許可等の権限移譲については、移譲に伴う条例化に向けた準備を進めている。					

総合評価

実績	環境審議会を2回実施し、第2次環境基本計画(中期実施計画)における平成28年度分の進捗状況(評価)や、平成31年度からの後期実施計画策定に向けた審議を行った。				
中間評価との相違点	墓地等の経営の許可権限移譲可能性検討会は、各種調査結果等の判断材料を基にした継続的な検討を4回実施する予定だったが、町として出来得る限り早急な対応を図るべく、9月5日の政策会議において、県からの移譲を受けて条例化することを町の方針として決定したため、初回を持って閉会した。				
事業指標(数値指標)	環境基本計画実施計画に掲げる施策を確実に推進する(100%)				
中期(29年度)目標値	100%				
実績値	【目標値の根拠または数値で表わせない指標】				
	平成28年度	平成29年度	平成30年度		
	77%	78%	実施計画の進捗率(過年度実施計画事業に対する評価) ※過年度分実施計画進捗率の平均		

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		275	255	510	273		
財源内訳	一般財源	275	255	510	273		
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他						

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	A
	【説明】 二宮町環境基本条例の基本理念等を踏まえ策定した「環境基本計画」の推進を図るには、一定の公費の投入が不可欠であるため。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	A
	【説明】 「環境基本計画」の推進は、町民、事業者連携のもと、町が主体的に実施する必要があるため。	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	A
	【説明】 中期実施計画(28年度実績)に対する評価を行ったところ、保留事業(2事業)を除く全ての事業(62事業)が「B評価(計画通り実施し、一定の成果が得られた)」以上となったため。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	B
	【説明】 職員が計画事業の進捗状況及び評価のとりまとめを行うことで、最低限の費用で進捗管理を行っているが、評価方法については、統一的な評価を行えるよう見直すことで、さらなる円滑化を図る余地があるため。	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 環境審議会からの意見聴取により「二宮町環境基本計画(中期実施計画)」の推進及び改善を図ることができた他、墓地等の経営の許可権限移譲可能性検討会等による検討結果を踏まえ、移譲に対する町の方針を決定することができた。	
	【理由】 ※総合評価がB、CまたはDの場合のみ記入	
	【今後の方向性】 ※総合評価がB、CまたはDの場合のみ記入	

基礎評価シート(平成29年度実績)

		担当部課等名	都市部 生活環境課					
基本構想	環境と風景が息づくまちづくり		重点的方針	2-1 二宮を知り、二宮に触れ、二宮を体験できる環境づくり				
分野別方針	環境、防災		実施計画事業	美化推進・動植物保全事業(No.48)				
予算等事業名	美化推進事業							
目的	生物多様性の保全のため、環境意識の高揚を図ることを目的としたゴミゼロキャンペーンを実施する。また町の中心を流れる葛川の美化を図る。 住環境向上のため有害鳥獣対策の実施及び狂犬病予防注射の促進を行う。							
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴミゼロキャンペーンの実施 ・美化財団負担金(海岸清掃) ・美化活動団体への補助 							
根拠法令・条例等	二宮町環境基本条例 二宮町廃棄物の減量化、資源化及び適正処理等に関する条例							
体制	<input checked="" type="checkbox"/>	町職員実施	<input type="checkbox"/>	一部委託あり	<input type="checkbox"/>	全部委託	<input type="checkbox"/>	その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか								
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している		<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている		<input type="checkbox"/>	③ 未実施	
②、③に対する理由								

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか								
<input type="checkbox"/>	① 検討できる		<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難				
理由		海岸ゴミゼロキャンペーンは、傷害保険料等の必要最低限の費用で実施しているため。また、美化財団負担金は、国庫補助の確保が例年困難であるため。						

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか								
<input type="checkbox"/>	① 検討できる		<input checked="" type="checkbox"/>	② 効率化は困難				
理由		キャンペーン期日に各地区で地域美化清掃を一斉に行う等、効率化を図っているため。						

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)							A
	【説明】 継続的な海岸ゴミゼロキャンペーンの実施により、住民の環境に対する意識の高揚が図られている。また、葛川や地域美化清掃の実施により、町の美化が推進されている。							

総合評価

実績	ゴミゼロキャンペーンの実施(平成29年5月27日)						
中間評価との相違点							
事業指標(数値指標)	参加者数						
中期(29年度)目標値	700人			【目標値の根拠または数値で表わせない指標】			
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度	環境基本計画実施計画より			
	504	508					

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		764	764	756	755		
財源内訳	一般財源	347	339	332	336		
	国庫支出金						
	県支出金	417	425	424	419		
	その他						

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	A
	【説明】 海岸だけでなく、二宮町の美化運動推進のため、実施していく必要がある。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	A
	【説明】 美化運動として、町が主導となり推進していく必要がある。	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	A
	【説明】 海岸清掃に508人が参加し、美化運動の中核となっている。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	A
	【説明】 参加者の保険費用のみで実施している。	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 県、団体、住民との連携を大切にしながら、二宮海岸の保全と魅力の向上のため、引き続き事業を実施する。	
	【理由】 ※総合評価がB、CまたはDの場合のみ記入	
	【今後の方向性】 ※総合評価がB、CまたはDの場合のみ記入	

基礎評価シート(平成29年度実績)

		担当部課等名	都市部 生活環境課					
基本構想	環境と風景が息づくまちづくり		重点的方針	2-1 二宮を知り、二宮に触れ、二宮を体験できる環境づくり				
分野別方針	環境、防災		実施計画事業	美化推進・動植物保全事業(No.48)				
予算等事業名	動物の保護管理事業							
目的	生物多様性の保全のため、環境意識の高揚を図ることを目的としたゴミゼロキャンペーンを実施する。また町の中心を流れる葛川の美化を図る。 住環境向上のため有害鳥獣対策の実施及び狂犬病予防注射の促進を行う。							
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・狂犬病予防注射の実施及び促進 ・有害鳥獣運搬処理 ・害虫対策 							
根拠法令・条例等	狂犬病予防法 鳥獣の保護及び狩猟の適正化に関する法律 犬の登録事務手続き等に関する規則							
体制	<input type="checkbox"/>	町職員実施	<input checked="" type="checkbox"/>	一部委託あり	<input type="checkbox"/>	全部委託	<input type="checkbox"/>	その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか					
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している	<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている	<input type="checkbox"/>	③ 未実施
②、③に対する理由					

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか					
<input checked="" type="checkbox"/>	① 検討できる	<input type="checkbox"/>	② 削減は困難		
理由		狂犬病予防集合注射の開催日数の削減により臨時雇賃金の減額を検討可能。			

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか					
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 効率化は困難		
理由		狂犬病予防法など法律に基づく事業を実施しているため、効率化は困難。 また、有害鳥獣による農作物等の被害の増加により捕獲頭数が増加傾向にあるため。			

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)				A
	【説明】 狂犬病予防注射促進や有害鳥獣運搬処理により、環境衛生の向上や農作物被害の防止が図られている。 狂犬病予防注射の接種率が減少傾向にあるため、引続き、普及啓発を行う。				

総合評価

実績	狂犬病予防注射(登録頭数:1,839頭、注射済み頭数:1,550頭、猶予頭数:93頭)				
中間評価との相違点					
事業指標(数値指標)	病気等の理由による猶予を除き狂犬病予防注射を確実に実施する(100%)				
中期(29年度)目標値	100%			【目標値の根拠または数値で表わせない指標】	
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度	狂犬病予防注射の接種率 ※狂犬病予防注射済頭数÷(登録頭数-猶予頭数)	
	90.2%	88.8%			

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		759	663	699	638		
財源内訳	一般財源	209	99	165	151		
	国庫支出金						
	県支出金	165	165	165	151		
	その他	385	399	369	336		

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	A
	【説明】 狂犬病予防法及び鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律に基づき事業を実施するには、一定の公費の投入が不可欠であるため。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	A
	【説明】 狂犬病予防法及び鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律に基づき、町が事業を実施する必要があるため。	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	A
	【説明】 狂犬病予防事業については、1956年の6頭を最後に国内で新たな狂犬病の報告がなく、有害鳥獣被害については、農業被害や生活被害の防止のために貸出をした中型檻にて28頭が捕獲され、被害の防止になったため。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	A
	【説明】 狂犬病予防及び畜犬登録に要する物品購入は、県獣医師会による共同購入により、最低限の費用で購入しているため。	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 獣医師会等との連携による狂犬病予防・畜犬登録の促進により公共の福祉の増進を図ることができた他、有害鳥獣の捕獲により生活環境の保全を図ることができた。	
	【理由】 ※総合評価がB、CまたはDの場合のみ記入	
	【今後の方向性】 ※総合評価がB、CまたはDの場合のみ記入	

基礎評価シート(平成29年度実績)

		担当部課等名	都市部 生活環境課					
基本構想	環境と風景が息づくまちづくり		重点的方針	2-1 二宮を知り、二宮に触れ、二宮を体験できる環境づくり				
分野別方針	環境、防災		実施計画事業	美化推進・動植物保全事業(No.48)				
予算等事業名	公害防止対策事業							
目的	生物多様性の保全のため、環境意識の高揚を図ることを目的としたゴミゼロキャンペーンを実施する。また町の中心を流れる葛川の美化を図る。 住環境向上のため有害鳥獣対策の実施及び狂犬病予防注射の促進を行う。							
内容	<ul style="list-style-type: none"> 河川水質測定 地域要望環境測定 							
根拠法令 ・条例等								
体制	<input type="checkbox"/>	町職員実施	<input type="checkbox"/>	一部委託あり	<input checked="" type="checkbox"/>	全部委託	<input type="checkbox"/>	その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか					
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している	<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている	<input type="checkbox"/>	③ 未実施
②、③に対する理由					

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか					
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難		
理由		今年度は、県が実施する調査結果から河川水質の状況を把握できるため、中村川の調査を減しましたが、これ以上の経費削減は困難である。			

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか					
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 効率化は困難		
理由		基本的に、定点での同一調査項目を継続的に測定しないと環境状況の変化を把握できないため。			

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)				A
	【説明】 継続的な河川水質調査による測定により、町の環境状況を把握できている。 29年は4回の実施予定のうち2回を計画通りに実施して。				

総合評価

実績	町内4河川7地点で、年4回水質調査を実施 地域要望分については、1回実施				
中間評価との相違点					
事業指標(数値指標)	BODの環境基準達成率(測定値が環境基準地内の地点数/測定値数)				
中期(29年度)目標値	100%				【目標値の根拠または数値で表わせない指標】
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度	環境基本計画実施計画より	
	97%	96%			

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		437	382	442	332		
財源内訳	一般財源	437	382	442	332		
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他						

事業の項目別評価

妥当性	(1)公費を投入して実施することが妥当な事業か A:妥当 B:どちらかといえば妥当 C:妥当ではない	A
	【説明】 住民の健康保護及び生活環境を保全するため、環境調査を実施することは必要である。	
妥当性	(2)町が主体となって実施する必要があるか A:町が行わなければならない B:町が行ったほうがよい C:委託等の必要がある	A
	【説明】 住民の健康保護及び生活環境に直結するため、実施する必要がある。	
有効性	成果が上がっているか A:十分成果が上がっている B:成果が上がっている C:成果が上がっていない	A
	【説明】 河川等の環境状況を把握するため、実施する必要がある。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A:適切である B:改善の余地がある C:効率的ではない	A
	【説明】 必要最低限の調査項目に絞り、実施している。	
総合評価	A:妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B:妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C:事業全体を見直す必要がある D:事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 環境調査は、毎年確認することが重要である。水質については、向上し改善された。	
	【理由】 ※総合評価がB、CまたはDの場合のみ記入	
	【今後の方向性】 ※総合評価がB、CまたはDの場合のみ記入	

基礎評価シート(平成29年度実績)

		担当部課等名	都市部 生活環境課		
基本構想	環境と風景が息づくまちづくり	重点的方針	2-1 二宮を知り、二宮に触れ、二宮を体験できる環境づくり		
分野別方針	環境、防災	実施計画事業	ごみ処理広域化推進事業(No.49)		
予算等事業名	ごみ処理広域化推進事業				
目的	平塚市及び大磯町とのごみ処理広域化を推進するため、他市町の広域施設に係る費用負担を行う。また、ウッドチップセンターの施設運営を行う。				
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・リサイクルセンター整備事業負担 ・広域ごみ処理費負担 				
根拠法令・条例等	一般廃棄物処理に係る事務事業の広域化に関する基本協定 ごみ焼却施設の整備運営に関する事務の事務委託に関する規約				
体制	<input type="checkbox"/> 町職員実施	<input type="checkbox"/> 一部委託あり	<input type="checkbox"/> 全部委託	<input checked="" type="checkbox"/> その他	

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか					
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している		<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている	
<input type="checkbox"/>	③ 未実施				
②、③に対する理由					

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか					
<input type="checkbox"/>	① 検討できる		<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難	
理由		事務委託に伴う他市町への負担金のため。			

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか					
<input type="checkbox"/>	① 検討できる		<input checked="" type="checkbox"/>	② 効率化は困難	
理由		広域処理の開始や施設稼働に伴い協議を要する案件は減少してきているが、現在、整備中のリサイクルセンターや、運用開始に伴う新たな課題対応には必要最低限の調整が必要となるため。			

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)				A
	【説明】 広域ブロックによるごみ処理広域化により、循環型社会形成に向けた各種施設整備運営や処理体制が図られている。				

総合評価

実績	平塚市及び大磯町とのごみ処理広域化に伴い、広域施設に係るリサイクルセンターの整備運営やウッドチップセンターの施設運営を行っている。				
中間評価との相違点					
事業指標(数値指標)	—				
中期(29年度)目標値	【目標値の根拠または数値で表わせない指標】				
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度	他市町が行う施設整備等に対する負担を行うものであるため、事業指標は設定できない。	
	—	—	—		

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		279,998	102,377	303,088	277,232		
財源内訳	一般財源	87,888	0	84,660	84,873		
	国庫支出金						
	県支出金	16,510	16,510	11,928	10,959		
	その他	175,600	85,867	206,500	181,400		

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	A
	【説明】 安定的、経済的なごみ処理体制を確立するために必要な事業である。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	A
	【説明】 自治体間による協力が必要である。	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	A
	【説明】 広域処理を行うことにより安定的、経済的なごみ処理が行える。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	A
	【説明】 広域処理施設の建設、運営にて効率的に処理がなされている。	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 広域ブロックによるごみ処理広域化により、循環型社会形成に向けた各種施設整備運営や処理体制が図られている。	
	【理由】 ※総合評価がB、CまたはDの場合のみ記入	
	【今後の方向性】 ※総合評価がB、CまたはDの場合のみ記入	

基礎評価シート(平成29年度実績)

		担当部課等名	都市部 生活環境課					
基本構想	環境と風景が息づくまちづくり		重点的方針	2-1 二宮を知り、二宮に触れ、二宮を体験できる環境づくり				
分野別方針	環境、防災		実施計画事業	ごみ処理広域化推進事業(No.49)				
予算等事業名	ウッドチップセンター運営事業							
目的	平塚市及び大磯町とのごみ処理広域化を推進するため、他市町の広域施設に係る費用負担を行う。また、ウッドチップセンターの施設運営を行う。							
内容	・施設運営							
根拠法令・条例等	一般廃棄物処理に係る事務事業の広域化に関する基本協定 剪定枝資源化施設の整備運営に関する事務の事務委託に関する規約							
体制	<input type="checkbox"/>	町職員実施	<input checked="" type="checkbox"/>	一部委託あり	<input type="checkbox"/>	全部委託	<input type="checkbox"/>	その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか								
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している		<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている		<input type="checkbox"/>	③ 未実施	
②、③に対する理由								

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか								
<input type="checkbox"/>	① 検討できる		<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難				
理由		15年間の長期契約で運営委託しているため、削減は困難。						

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか								
<input type="checkbox"/>	① 検討できる		<input checked="" type="checkbox"/>	② 効率化は困難				
理由		現時点で出来る限り効率化を図っており、効率化は難しい。						

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)							A
	【説明】 SPCによる施設運営が適正に行われており、1市2町から排出される剪定枝の資源化が図られている。							

総合評価

実績	搬入量:1628.19t、処理量:1357.36t							
中間評価との相違点	—							
事業指標(数値指標)	—							
中期(29年度)目標値	—							【目標値の根拠または数値で表わせない指標】
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度	SPCによるウッドチップセンターの円滑な管理運営により、剪定枝の資源化を行う				
	—	—	—					

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		69,694	67,011	64,443	61,975		
財源内訳	一般財源	6,400	5,650	5,751	7,754		
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他	63,294	61,361	58,692	54,221		

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A:妥当 B:どちらかといえば妥当 C:妥当ではない	A
	【説明】 ごみ処理広域化の施設であり、一般廃棄物である剪定枝の処理は自治体の責務である。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A:町が行わなければならない B:町が行ったほうがよい C:委託等の必要がある	A
	【説明】 一般廃棄物である剪定枝の処理は自治体の責務である。	
有効性	成果が上がっているか A:十分成果が上がっている B:成果が上がっている C:成果が上がっていない	A
	【説明】 搬入された剪定枝を適正に資源化处理できている。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A:適切である B:改善の余地がある C:効率的ではない	A
	【説明】 SPCが資源物を売払い、その売上げ費用を管理運営資金の一部としていることから、町の費用を抑えることができる。	
総合評価	A:妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B:妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C:事業全体を見直す必要がある D:事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 SPCによる施設運営が適正に行われており、剪定枝の資源化が図られている。	
	【理由】 ※総合評価がB、CまたはDの場合のみ記入	
	【今後の方向性】 ※総合評価がB、CまたはDの場合のみ記入	

基礎評価シート(平成29年度実績)

		担当部課等名	都市部 生活環境課					
基本構想	環境と風景が息づくまちづくり		重点的方針	2-1 二宮を知り、二宮に触れ、二宮を体験できる環境づくり				
分野別方針	環境、防災		実施計画事業	3R・3S推進事業(No.50)				
予算等事業名	不法投棄防止事業							
目的	循環型社会の実現を目指し、ごみの減量化・再利用化を推進するとともに廃棄物の適正処理を行う。							
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・不法投棄パトロールの実施 ・不法投棄処分 ・不法投棄防止用看板設置 							
根拠法令・条例等	廃棄物の処理及び清掃に関する法律 二宮町廃棄物の減量化、資源化及び適正処理等に関する条例							
体制	<input type="checkbox"/>	町職員実施	<input checked="" type="checkbox"/>	一部委託あり	<input type="checkbox"/>	全部委託	<input type="checkbox"/>	その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか								
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している		<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている		<input type="checkbox"/>	③ 未実施	
②、③に対する理由								

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか								
<input type="checkbox"/>	① 検討できる		<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難				
理由		必要最低限の実施回数で臨時職員を雇用し対応するだけでなく、職員が現場確認、回収等も行っているため。						

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか								
<input type="checkbox"/>	① 検討できる		<input checked="" type="checkbox"/>	② 効率化は困難				
理由		臨時雇を雇用してのパトロール回数を必要最低限に絞り実施している他、不法投棄の状況によっては、職員による現場確認、回収等が必要となる状況もあるため。						

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)							A
	【説明】 不法投棄物の防止啓発及び撤去により、生活環境の保全が図られている。							

総合評価

実績	不法投棄パトロールを51回実施した。						
中間評価との相違点							
事業指標(数値指標)	不法投棄回収量						
中期(29年度)目標値	2.8t		【目標値の根拠または数値で表わせない指標】				
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度	環境基本計画実施計画より			
	1.54t	1.84t					

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		793	702	690	620		
財源内訳	一般財源	793	702	690	620		
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他						

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	A
	【説明】 不法投棄は不法投棄した者が処分すべきだが、投棄者が特定できない場合は、町で処分をせざるを得ない。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	A
	【説明】 生活環境保全のため、不法投棄物の撤去等を実施する必要がある。	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	A
	【説明】 不法投棄物を撤去することで、更なる不法投棄物の誘発に対する一定の予防効果がある。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	A
	【説明】 不法投棄パトロールを非常勤職員が行い、町内を効率的に巡回し、不法投棄物を回収し生活環境の保全が図られている。	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 不法投棄物を撤去することで、生活環境の保全につながる。また、更なる不法投棄物の誘発に対して、撤去することで一定の予防効果がある。	
	【理由】 ※総合評価がB、CまたはDの場合のみ記入	
	【今後の方向性】 ※総合評価がB、CまたはDの場合のみ記入	

基礎評価シート(平成29年度実績)

		担当部課等名	都市部 生活環境課	
基本構想	環境と風景が息づくまちづくり	重点的方針	2-1 二宮を知り、二宮に触れ、二宮を体験できる環境づくり	
分野別方針	環境、防災	実施計画事業	3R・3S推進事業(No.50)	
予算等事業名	ごみ減量化・再利用事業			
目的	循環型社会の実現を目指し、ごみの減量化・再利用化を推進するとともに廃棄物の適正処理を行う。			
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ごみ減量化推進協議会の開催 ・地域環境推進員会議の開催 ・廃食用油石けんづくり ・指定ごみ袋購入 ・ごみ減量化施策の啓発等 ・大型生ごみ処理機維持管理 ・生ごみ処理機の普及啓発(補助の実施) 			
根拠法令・条例等	廃棄物の処理及び清掃に関する法律 二宮町廃棄物の減量化、資源化及び適正処理等に関する条例			
体制	<input type="checkbox"/> 町職員実施 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託あり <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> その他			

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか					
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している	<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている	<input type="checkbox"/>	③ 未実施
②、③に対する理由					

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか					
<input checked="" type="checkbox"/>	① 検討できる	<input type="checkbox"/>	② 削減は困難		
理由	29年度に製品保証期間を終える大型生ごみ処理機(エクレール二宮)の廃止により、維持に係る経費の削減を検討できる。ただし、廃止翌年は、撤去費用等が発生します。				

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか					
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 効率化は困難		
理由	地域環境推進委員を通しての回覧の配布により、各種の啓発に係る事務の効率化を実施している。				

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 各種の普及啓発により、ごみの減量化及び資源の再利用化に向けた促進が図られている。	

総合評価

実績	ごみ減量化推進協議会 2回、地域環境推進員会議 2回を実施した。 ごみ減量に伴う食品ロスの啓発を行う。 カラスネットの配布 150枚				
中間評価との相違点					
事業指標(数値指標)	1人1日当たりのごみ排出量				
中期(29年度)目標値	827g/人・日		【目標値の根拠または数値で表わせない指標】		
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度	環境基本計画実施計画より	
	843g/人・日	838g/人・日			

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		12,838	9,391	9,504	7,592		
財源内訳	一般財源	1,504	0	1,183	614		
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他	11,339	9,368	8,321	6,978		

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A:妥当 B:どちらかといえば妥当 C:妥当ではない	A
	【説明】 生活環境の保全及び公衆衛生の向上を図り、快適な生活を確保する必要がある。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A:町が行わなければならない B:町が行ったほうがよい C:委託等の必要がある	A
	【説明】 生活環境の保全及び公衆衛生の向上を図り、快適な生活を確保する必要がある。	
有効性	成果が上がっているか A:十分成果が上がっている B:成果が上がっている C:成果が上がっていない	A
	【説明】 生ごみ処理機の補助や水切りキャンペーンを実施することで減量化につながっている。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A:適切である B:改善の余地がある C:効率的ではない	A
	【説明】 啓発など費用をかけず環境イベント等で実施した。	
総合評価	A:妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B:妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C:事業全体を見直す必要がある D:事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 生ごみ処理機の補助や水切りキャンペーン等での各種啓発や地域環境推進員の地域での啓発により、ごみの減量化及び資源の再利用化に向けた促進が図られている。	
	【理由】 ※総合評価がB、CまたはDの場合のみ記入	
	【今後の方向性】 ※総合評価がB、CまたはDの場合のみ記入	

基礎評価シート(平成29年度実績)

		担当部課等名	都市部 生活環境課					
基本構想	環境と風景が息づくまちづくり		重点的方針	2-1 二宮を知り、二宮に触れ、二宮を体験できる環境づくり				
分野別方針	環境、防災		実施計画事業	3R・3S推進事業(No.50)				
予算等事業名	一般廃棄物処理事務事業							
目的	循環型社会の実現を目指し、ごみの減量化・再利用化を推進するとともに廃棄物の適正処理を行う。							
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・処理券販売等 ・収集カレンダー等の印刷 ・カラスネット配布 ・ごみ置場の管理 ・町村清掃行政協議会(会議、研修) 							
根拠法令・条例等	廃棄物の処理及び清掃に関する法律 ・条例等 二宮町廃棄物の減量化、資源化及び適正処理等に関する条例							
体制	<input type="checkbox"/>	町職員実施	<input checked="" type="checkbox"/>	一部委託あり	<input type="checkbox"/>	全部委託	<input type="checkbox"/>	その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか					
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している	<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている	<input type="checkbox"/>	③ 未実施
②、③に対する理由					

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか					
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難		
理由		一般廃棄物を処理するために必要な事務に係る費用であるため。			

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか					
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 効率化は困難		
理由		一般廃棄物を処理するために必要な事務であるため。			

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)				A
	【説明】 一般廃棄物処理事務事業の実施により、廃棄物の適正な処理が図られている。				

総合評価

実績	ごみの出し方ガイド、ごみのスケジュールシールなどを作成した。				
中間評価との相違点					
事業指標(数値指標)	—				
中期(29年度)目標値	【目標値の根拠または数値で表わせない指標】				
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度	一般廃棄物を処理していくための事務費	
	—	—			

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		3,321	3,145	1,945	1,252		
財源内訳	一般財源	3,319	3,143	1,919	1,226		
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他	2	2	26	26		

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	A
	【説明】 一般廃棄物の収集は市町村の責務であり、収集業務を行うに必要な事務であるため。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	A
	【説明】 一般廃棄物の収集は市町村の責務であり、収集業務を行うに必要な事務であるため。	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	A
	【説明】 一般廃棄物を処理していくための事務である。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	A
	【説明】 入札等を行い費用の軽減を行っている。	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 一般廃棄物を処理していくための事務費で、廃棄物は適正に処理がなされており、生活環境の保全及び公衆衛生の向上を図ることができた。	
	【理由】 ※総合評価がB、CまたはDの場合のみ記入	
	【今後の方向性】 ※総合評価がB、CまたはDの場合のみ記入	

基礎評価シート(平成29年度実績)

		担当部課等名	都市部 生活環境課					
基本構想	環境と風景が息づくまちづくり		重点的方針	2-1 二宮を知り、二宮に触れ、二宮を体験できる環境づくり				
分野別方針	環境、防災		実施計画事業	3R・3S推進事業(No.50)				
予算等事業名	じん芥収集事業							
目的	循環型社会の実現を目指し、ごみの減量化・再利用化を推進するとともに廃棄物の適正処理を行う。							
内容	・じん芥収集委託(廃棄物の収集)							
根拠法令・条例等	廃棄物の処理及び清掃に関する法律 二宮町廃棄物の減量化、資源化及び適正処理等に関する条例							
体制	<input type="checkbox"/>	町職員実施	<input type="checkbox"/>	一部委託あり	<input checked="" type="checkbox"/>	全部委託	<input type="checkbox"/>	その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか									
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している		<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている		<input type="checkbox"/>	③ 未実施		
②、③に対する理由									

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか									
<input type="checkbox"/>	① 検討できる		<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難					
理由		入札に伴う設計変更により経費等の削減が行われました。また、長期契約を行っているため経費の削減は行えません。							

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか									
<input checked="" type="checkbox"/>	① 検討できる		<input type="checkbox"/>	② 効率化は困難					
理由		収集時における作業員の対応マニュアル化等により、統一的な対応や事務を効率化していますが、今後も見直し等を行っていき、効率化に努めます。							

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)								A
	【説明】		一般廃棄物の確実な収集運搬により、廃棄物の適正な処理が図られている。						

総合評価

実績	8,570,056kgを収集し、処理施設等へ運搬を行った。							
中間評価との相違点								
事業指標(数値指標)	—							
中期(29年度)目標値	【目標値の根拠または数値で表わせない指標】							
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度	適正な一般廃棄物の収集運搬				
	—	—						

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		175,078	175,077	166,110	165,961		
財源内訳	一般財源	155,053	156,094	148,620	148,917		
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他	20,025	18,983	17,490	17,044		

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A:妥当 B:どちらかといえば妥当 C:妥当ではない	A
	【説明】 生活環境の保全及び公衆衛生の向上を図るため、一般廃棄物の収集は市町村の責務である。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A:町が行わなければならない B:町が行ったほうがよい C:委託等の必要がある	A
	【説明】 生活環境の保全及び公衆衛生の向上を図るため、一般廃棄物の収集は市町村の責務である。	
有効性	成果が上がっているか A:十分成果が上がっている B:成果が上がっている C:成果が上がっていない	A
	【説明】 一般廃棄物処理計画に従い、一般廃棄物を収集することで、適正処理することができている。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A:適切である B:改善の余地がある C:効率的ではない	A
	【説明】 一般廃棄物を適切に収集、運搬するための適正な費用となっている。	
総合評価	A:妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B:妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C:事業全体を見直す必要がある D:事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 一般廃棄物処理計画に従い、一般廃棄物を収集することで、生活環境の保全及び公衆衛生の向上を図ることができた。	
	【理由】 ※総合評価がB、CまたはDの場合のみ記入	
	【今後の方向性】 ※総合評価がB、CまたはDの場合のみ記入	

基礎評価シート(平成29年度実績)

		担当部課等名	都市部 生活環境課	
基本構想	環境と風景が息づくまちづくり	重点的方針	2-1 二宮を知り、二宮に触れ、二宮を体験できる環境づくり	
分野別方針	環境、防災	実施計画事業	3R・3S推進事業(No.50)	
予算等事業名	じん芥運搬処理事業			
目的	循環型社会の実現を目指し、ごみの減量化・再利用化を推進するとともに廃棄物の適正処理を行う。			
内容	・じん芥運搬処理委託(廃棄物の運搬・処理)			
根拠法令・条例等	廃棄物の処理及び清掃に関する法律 二宮町廃棄物の減量化、資源化及び適正処理等に関する条例			
体制	<input type="checkbox"/> 町職員実施	<input type="checkbox"/> 一部委託あり	<input checked="" type="checkbox"/> 全部委託	<input type="checkbox"/> その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか					
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している	<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている	<input type="checkbox"/>	③ 未実施
②、③に対する理由					

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか				
<input checked="" type="checkbox"/>	① 検討できる	<input type="checkbox"/>	② 削減は困難	
理由	ごみ処理広域化により削減される見込みである。			

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか				
<input checked="" type="checkbox"/>	① 検討できる	<input type="checkbox"/>	② 効率化は困難	
理由	ごみ処理広域化により効率的なごみの運搬・処理ができる。			

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 ごみ処理広域化によりごみの適切かつ効率的な処理処分ができています。	

総合評価

実績	ごみ総処理量 8,570t(処理ベース)			
中間評価との相違点	—			
事業指標(数値指標)	—			
中期(29年度)目標値	—			
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度	一般廃棄物全体の円滑な運搬・処理
	—	—		

【目標値の根拠または数値で表わせない指標】

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		48,202	45,240	46,884	42,061		
財源内訳	一般財源	34,139	31,502	42,698	38,407		
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他	14,063	13,738	4,186	3,654		

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A:妥当 B:どちらかといえば妥当 C:妥当ではない	A
	【説明】 一般廃棄物の運搬及び処分は市町村の責務である。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A:町が行わなければならない B:町が行ったほうがよい C:委託等の必要がある	A
	【説明】 同上	
有効性	成果が上がっているか A:十分成果が上がっている B:成果が上がっている C:成果が上がっていない	A
	【説明】 一般廃棄物を滞りなく適切に運搬、処分している。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A:適切である B:改善の余地がある C:効率的ではない	A
	【説明】 一般廃棄物が適切に運搬、処分されるための適正な費用となっている。	
総合評価	A:妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B:妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C:事業全体を見直す必要がある D:事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 一般廃棄物の運搬及び処分を適切に実施できた。	
	【理由】 ※総合評価がB、CまたはDの場合のみ記入	
	【今後の方向性】 ※総合評価がB、CまたはDの場合のみ記入	

基礎評価シート(平成29年度実績)

		担当部課等名	都市部 生活環境課		
基本構想	環境と風景が息づくまちづくり		重点的方針	2-1 二宮を知り、二宮に触れ、二宮を体験できる環境づくり	
分野別方針	環境、防災		実施計画事業	3R・3S推進事業(No.50)	
予算等事業名	し尿処理事業				
目的	循環型社会の実現を目指し、ごみの減量化・再利用化を推進するとともに廃棄物の適正処理を行う。				
内容	<ul style="list-style-type: none"> し尿処理施設の維持管理 施設改修実施計画及び実施設計委託 				
根拠法令・条例等	廃棄物の処理及び清掃に関する法律、神奈川県生活環境の保全条例				
体制	<input type="checkbox"/>	町職員実施	<input checked="" type="checkbox"/>	一部委託あり	<input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか					
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している		<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている	
<input type="checkbox"/>	③ 未実施				
②、③に対する理由					

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか					
<input type="checkbox"/>	① 検討できる		<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難	
理由		点検や補修を定期的に行うことにより、費用を抑えて維持管理をしている。また、大規模改修を控え、必要最小限の補修にとどめ、施設の運転においても節電を意識し、費用を抑えている。			

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか					
<input checked="" type="checkbox"/>	① 検討できる		<input type="checkbox"/>	② 効率化は困難	
理由		減少傾向にあるし尿汚泥に対し、効率的な運搬・処理を検討していく。また、改修計画については、現状に即した方法とし、効率化も含め検討する。			

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)				A
	【説明】 し尿処理は放流水の排出基準に適合しており適切に管理がなされている。また施設の改修については、現状に即した計画の策定が進んでいる。				

総合評価

実績	汚泥受入実績 6081.7k ℓ (生し尿 331.2k ℓ 、浄化槽汚泥 5750.5k ℓ) し尿処理施設の水质、臭気、ダイオキシン類の測定を実施				
中間評価との相違点	-				
事業指標(数値指標)	し尿処理施設の水质、臭気、ダイオキシン類測定における基準値適合率				
中期(29年度)目標値	100%			【目標値の根拠または数値で表わせない指標】	
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度	放流水45項目、臭気1項目、ダイオキシン類1項目 (47/47=100%)	
	100%	100%			

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		40,472	39,162	43,788	41,776		
財源内訳	一般財源	39,498	38,297	42,821	40,876		
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他	974	865	967	900		

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	A
	【説明】 生し尿及び浄化槽汚泥の処理は町の責務である。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	A
	【説明】 同上	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	A
	【説明】 受け入れた生し尿及び浄化槽汚泥を適正に処理できている。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	A
	【説明】 点検や補修を定期的に行うことにより、費用を抑えて維持管理している。運転においても節電を意識し、費用を抑えることができています。	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 し尿処理施設の円滑な管理運営ができています。測定結果も良好である。	
	【理由】 ※総合評価がB、CまたはDの場合のみ記入	
	【今後の方向性】 ※総合評価がB、CまたはDの場合のみ記入	

基礎評価シート(平成29年度実績)

		担当部課等名	都市部 生活環境課		
基本構想	環境と風景が息づくまちづくり		重点的方針	2-1 二宮を知り、二宮に触れ、二宮を体験できる環境づくり	
分野別方針	環境、防災		実施計画事業	3R・3S推進事業(No.50)	
予算等事業名	し尿処理事業				
目的	循環型社会の実現を目指し、ごみの減量化・再利用化を推進するとともに廃棄物の適正処理を行う。				
内容	<ul style="list-style-type: none"> し尿処理施設の維持管理 施設改修実施計画及び実施設計委託 				
根拠法令・条例等	廃棄物の処理及び清掃に関する法律、神奈川県生活環境の保全条例				
体制	<input type="checkbox"/>	町職員実施	<input checked="" type="checkbox"/>	一部委託あり	<input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか					
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している		<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている	
<input type="checkbox"/>	③ 未実施				
②、③に対する理由					

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか					
<input type="checkbox"/>	① 検討できる		<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難	
理由		点検や補修を定期的に行うことにより、費用を抑えて維持管理をしている。また、大規模改修を控え、必要最小限の補修にとどめ、施設の運転においても節電を意識し、費用を抑えている。			

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか					
<input checked="" type="checkbox"/>	① 検討できる		<input type="checkbox"/>	② 効率化は困難	
理由		減少傾向にあるし尿汚泥に対し、効率的な運搬・処理を検討していく。また、改修計画については、現状に即した方法とし、効率化も含め検討する。			

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)				A
	【説明】 し尿処理は放流水の排出基準に適合しており適切に管理がなされている。また施設の改修については、現状に即した計画の策定が進んでいる。				

総合評価

実績	汚泥受入実績 6081.7k0(生し尿 331.2k0、浄化槽汚泥 5750.5k0) し尿処理施設の水質、臭気、ダイオキシン類の測定を実施				
中間評価との相違点	—				
事業指標(数値指標)	し尿処理施設の水質、臭気、ダイオキシン類測定における基準値適合率				
中期(29年度)目標値	100%			【目標値の根拠または数値で表わせない指標】	
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度	放流水45項目、臭気1項目、ダイオキシン類1項目 (47/47=100%)	
	100%	100%			

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		40,472	39,162	43,788	41,776		
財源内訳	一般財源	39,498	38,297	42,821	40,876		
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他	974	865	967	900		

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	A
	【説明】 生し尿及び浄化槽汚泥の処理は町の責務である。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	A
	【説明】 同上	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	A
	【説明】 受け入れた生し尿及び浄化槽汚泥を適正に処理できている。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	A
	【説明】 点検や補修を定期的に行うことにより、費用を抑えて維持管理している。運転においても節電を意識し、費用を抑えることができている。	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 し尿処理施設の円滑な管理運営ができている。測定結果も良好である。	
	【理由】 ※総合評価がB、CまたはDの場合のみ記入	
	【今後の方向性】 ※総合評価がB、CまたはDの場合のみ記入	

基礎評価シート(平成29年度実績)

		担当部課等名	都市部 生活環境課					
基本構想	環境と風景が息づくまちづくり		重点的方針	2-1 二宮を知り、二宮に触れ、二宮を体験できる環境づくり				
分野別方針	環境、防災		実施計画事業	3R・3S推進事業(No.50)				
予算等事業名	ごみ積替施設の維持管理							
目的	循環型社会の実現を目指し、ごみの減量化・再利用化を推進するとともに廃棄物の適正処理を行う。							
内容	<ul style="list-style-type: none"> ごみ積替施設の維持管理 可燃ごみの外部搬出 							
根拠法令・条例等	—							
体制	<input type="checkbox"/>	町職員実施	<input checked="" type="checkbox"/>	一部委託あり	<input type="checkbox"/>	全部委託	<input type="checkbox"/>	その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか								
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している		<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている		<input type="checkbox"/>	③ 未実施	
②、③に対する理由								

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか								
<input type="checkbox"/>	① 検討できる		<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難				
理由		安全・適正な事業実施のためには現状維持が必要。						

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか								
<input type="checkbox"/>	① 検討できる		<input checked="" type="checkbox"/>	② 効率化は困難				
理由		効率を考慮して事業を実施しているが、現状以上は難しい。						

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)							A
	【説明】 ごみ処理広域化による収集区分の変更後も廃棄物の適正な処理が図られている。							

総合評価

実績	可燃ごみ外部搬出量 5,428t							
中間評価との相違点	—							
事業指標(数値指標)	—							
中期(29年度)目標値	—							【目標値の根拠または数値で表わせない指標】
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度	ごみ積替施設を適正に運転・管理し、安定した外部搬出を行う				
	—	—	—					

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		57,410	55,096	57,276	54,734		
財源内訳	一般財源	57,410	55,096	46,097	43,159		
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他			11,179	11,575		

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	A
	【説明】 可燃ごみの外部搬出のためには、必要不可欠な施設である。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	A
	【説明】 一般廃棄物の運搬は町の責務である。	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	A
	【説明】 可燃ごみの安定した外部搬出ができています。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	A
	【説明】 可燃ごみの安定した外部搬出のため、必要な費用である。	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 可燃ごみの安定した外部搬出ができています。	
	【理由】 ※総合評価がB、CまたはDの場合のみ記入	
	【今後の方向性】 ※総合評価がB、CまたはDの場合のみ記入	

基礎評価シート(平成29年度実績)

		担当部課等名	都市部 生活環境課					
基本構想	環境と風景が息づくまちづくり		重点的方針	2-1 二宮を知り、二宮に触れ、二宮を体験できる環境づくり				
分野別方針	環境、防災		実施計画事業	3R・3S推進事業(No.50)				
予算等事業名	最終処分場施設運営事業							
目的	循環型社会の実現を目指し、ごみの減量化・再利用化を推進するとともに廃棄物の適正処理を行う。							
内容	<ul style="list-style-type: none"> 水質・ダイオキシン類の測定 浸出水処理施設の維持管理 							
根拠法令・条例等	廃棄物の処理及び清掃に関する法律、神奈川県生活環境の保全条例							
体制	<input type="checkbox"/>	町職員実施	<input type="checkbox"/>	一部委託あり	<input type="checkbox"/>	全部委託	<input type="checkbox"/>	その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか								
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している		<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている		<input type="checkbox"/>	③ 未実施	
②、③に対する理由								

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか								
<input type="checkbox"/>	① 検討できる		<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難				
理由		適正な最終処分場の維持管理のためには、現状維持が必要。						

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか								
<input type="checkbox"/>	① 検討できる		<input checked="" type="checkbox"/>	② 効率化は困難				
理由		今まで以上の効率化は難しいが、引き続き効率化も含めた維持管理を行う。						

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)							A
	【説明】 最終処分場は放流水の排出基準に適合しており適切に管理がなされている。							

総合評価

実績	浸出水処理量(3381.06m ³) 最終処分場浸出水、放流水、地下水の水質、臭気、ダイオキシン類の測定を実施した。						
中間評価との相違点	—						
事業指標(数値指標)	最終処分場の水質、臭気、ダイオキシン類測定における基準値適合率						
中期(29年度)目標値	100%			【目標値の根拠または数値で表わせない指標】			
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度	放流水46項目、臭気1項目、ダイオキシン類2項目、地下水45項目(94/94=100%)			
	100%	100%					

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		4,167	3,672	3,757	3,535		
財源内訳	一般財源	4,167	3,672	3,757	3,535		
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他						

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	A
	【説明】 最終処分場の維持管理は町の責務である。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	A
	【説明】 同上	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	A
	【説明】 事業指標に対する目標値が達成でき、適正な維持管理ができた。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	A
	【説明】 浸出水量に応じた効率のよい運転を実施している。	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 目標値達成のための維持管理を徹底しつつ、事業としては現状維持で実施していく。	
	【理由】 ※総合評価がB、CまたはDの場合のみ記入	
	【今後の方向性】 ※総合評価がB、CまたはDの場合のみ記入	

基礎評価シート(平成29年度実績)

		担当部課等名	都市部 生活環境課	
基本構想	環境と風景が息づくまちづくり		重点的方針	2-1 二宮を知り、二宮に触れ、二宮を体験できる環境づくり
分野別方針	環境、防災		実施計画事業	地球環境保全事業(No.51)
予算等事業名	環境保全推進事業			
目的	低炭素社会の実現をめざし、省エネルギー・自然エネルギーの推進を図るため、啓発や支援を行う。また、二宮町の特徴である空気が綺麗で風通しの良い快適な生活環境向上を図るため騒音大気測定や地域美化清掃の推進を図る。			
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・環境学習 ・緑のカーテン ・太陽光補助金(住宅リフォーム助成金にて対応) ・喫煙マナーの啓発 			
根拠法令・条例等	環境基本法、神奈川県生活環境の保全等に関する条例、二宮町環境基本条例			
体制	<input type="checkbox"/> 町職員実施	<input type="checkbox"/> 一部委託あり	<input checked="" type="checkbox"/> 全部委託	<input type="checkbox"/> その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか				
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している	<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている	<input type="checkbox"/> ③ 未実施
②、③に対する理由				

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか				
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難	
理由	地球温暖化防止に向けた取組みは、グリーンカーテンの消耗品等の必要最低限の費用で実施しているため。			

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか				
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 効率化は困難	
理由	県地球温暖化防止活動推進員を始めたことと各種の環境団体や企業の協力により、普及啓発に係る事務を効率化している。			

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)			A
	【説明】 地球温暖化防止活動推進員や地域環境推進員との協働により生活環境の保全が図られている。			

総合評価

実績	クールチョイスへの賛同に伴い地球温暖化対策実行計画に基づく取組みの推進及び普及啓発を実施			
中間評価との相違点	二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金(地域と連携したCO2排出削減促進事業)を活用し、二酸化炭素排出抑制啓発イベント委託による普及啓発を実施したほか、企業と神奈川県地球温暖化防止活動推進員の協力による児童向けの工作教室「夏の子ども環境教室」を実施した。			
事業指標(数値指標)	地球温暖化防止に向けたグリーンカーテンの設置箇所			
中期(29年度)目標値	2箇所			【目標値の根拠または数値で表わせない指標】
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度	環境基本計画実施計画より
	1箇所	2箇所		

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		25	20	2,615	2,591		
財源内訳	一般財源	25	20	25	5		
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他			2,590	2,586		

事業の項目別評価

妥当性	(1)公費を投入して実施することが妥当な事業か A:妥当 B:どちらかといえば妥当 C:妥当ではない	A
	【説明】 グリーンカーテンや節電や自然エネルギーの啓発は、地球温暖化防止と町民への啓発につながり重要であるため。	
妥当性	(2)町が主体となって実施する必要があるか A:町が行わなければならない B:町が行ったほうがよい C:委託等の必要がある	A
	【説明】 グリーンカーテンや節電や自然エネルギーは、町が実践することで、町民への啓発につながるため。	
有効性	成果が上がっているか A:十分成果が上がっている B:成果が上がっている C:成果が上がっていない	A
	【説明】 企業と神奈川県地球温暖化防止活動推進員の協力による児童向けの工作教室「夏の子ども環境教室」などを行い、啓発を行った。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A:適切である B:改善の余地がある C:効率的ではない	A
	【説明】 二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金(地域と連携したCO2排出削減促進事業)を活用し、費用を抑えている	
総合評価	A:妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B:妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C:事業全体を見直す必要がある D:事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 グリーンカーテンや環境学習等で各種イベントで町民への啓発を図れた。	
	【理由】 ※総合評価がB、CまたはDの場合のみ記入	
	【今後の方向性】 ※総合評価がB、CまたはDの場合のみ記入	

基礎評価シート(平成29年度実績)

		担当部課等名	都市部 生活環境課	
基本構想	環境と風景が息づくまちづくり		重点的方針	2-1 二宮を知り、二宮に触れ、二宮を体験できる環境づくり
分野別方針	環境、防災		実施計画事業	地球環境保全事業(No.51)
予算等事業名	公害防止対策事業			
目的	低炭素社会の実現をめざし、省エネルギー・自然エネルギーの推進を図るため、啓発や支援を行う。また、二宮町の特徴である空気が綺麗で風通しの良い快適な生活環境向上を図るため騒音測定や地域美化清掃の推進を図る。			
内容	・騒音測定			
根拠法令・条例等	環境基本法、騒音規制法、神奈川県生活環境の保全等に関する条例、二宮町環境基本条例			
体制	<input type="checkbox"/> 町職員実施	<input type="checkbox"/> 一部委託あり	<input checked="" type="checkbox"/> 全部委託	<input type="checkbox"/> その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか				
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している	<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている	<input type="checkbox"/> ③ 未実施
②、③に対する理由				

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか				
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難	
理由	今年度、一酸化炭素測定につきましては、例年基準値を下回っていたため廃止しましたが、騒音に関しては基本的に定点での同一調査項目を継続的に測定しないと環境状況の変化を把握できないため。			

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか				
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 効率化は困難	
理由	基本的に定点での同一調査項目を継続的に測定しないと環境状況の変化を把握できないため。			

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)			A
	【説明】 継続的な騒音測定により、町の環境状況を把握できている。 29年度は1月に騒音測定を実施する予定である。			

総合評価

実績	町内6箇所騒音測定を実施した。騒音測定においては12検体中2検体が環境基準値を超えたが、要請限度値以下であった。			
中間評価との相違点				
事業指標(数値指標)	環境基準達成率(測定値が環境基準地内の測定検体数/測定検体数)			
中期(29年度)目標値	100%			【目標値の根拠または数値で表わせない指標】
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度	環境基本計画実施計画より
	83%	83%		

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		500	500	450	391		
財源内訳	一般財源	500	500	450	391		
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他						

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	A
	【説明】 住民の健康保護及び生活環境を保全するため、環境調査を実施することは必要である。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	A
	【説明】 住民の健康保護及び生活環境に直結するため、実施する必要がある。	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	A
	【説明】 原則、同じ地点で環境調査を実施することで、町内の騒音状況を把握することができている。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	A
	【説明】 見積合わせを実施し、業者を選定している。	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 騒音測定を実施した結果、県道、国道において一部環境基準を超える値が検出されたものの要請限度値を超えるものではなく、環境状況の把握のため、今後も継続して測定することにより、経過を観察することが必要である。	
	【理由】 ※総合評価がB、CまたはDの場合のみ記入	
	【今後の方向性】 ※総合評価がB、CまたはDの場合のみ記入	

基礎評価シート(平成29年度実績)

		担当部課等名	都市部 生活環境課					
基本構想	環境と風景が息づくまちづくり		重点的方針	2-1 二宮を知り、二宮に触れ、二宮を体験できる環境づくり				
分野別方針	環境、防災		実施計画事業	地球環境保全事業(No.51)				
予算等事業名	美化推進事業							
目的	低炭素社会の実現をめざし、省エネルギー・自然エネルギーの推進を図るため、啓発や支援を行う。また、二宮町の特徴である空気が綺麗で風通しの良い快適な生活環境向上を図るため騒音大気測定や地域美化清掃の推進を図る。							
内容	・地域美化清掃の実施							
根拠法令・条例等	二宮町環境基本条例							
体制	<input type="checkbox"/>	町職員実施	<input type="checkbox"/>	一部委託あり	<input type="checkbox"/>	全部委託	<input checked="" type="checkbox"/>	その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか								
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している		<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている		<input type="checkbox"/>	③ 未実施	
②、③に対する理由								

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか								
<input type="checkbox"/>	① 検討できる		<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難				
理由		地域美化清掃は、傷害保険料やごみ袋等の必要最低限の費用で実施しているため。						

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか								
<input type="checkbox"/>	① 検討できる		<input checked="" type="checkbox"/>	② 効率化は困難				
理由		地区、団体、個人による清掃活動であり、協議書提出の際のごみ袋の配布や排出時の調整に最低限の手続きが必要となるため。						

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)							A
	【説明】 地域美化清掃の支援により、生活環境向上が図られている。							

総合評価

実績	46件の地域美化清掃が行われた。						
中間評価との相違点	—						
事業指標(数値指標)	地域美化清掃件数						
中期(29年度)目標値	60件			【目標値の根拠または数値で表わせない指標】			
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度	環境基本計画実施計画より			
	56件	46件					

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		200	192	211	173		
財源内訳	一般財源	200	192	211	173		
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他						

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	A
	【説明】 快適な生活環境の向上のため必要である。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	A
	【説明】 主体は住民であるが、ごみ袋の配布や回収など支援については町が主体となる必要がある。	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	A
	【説明】 地域清掃により、環境美化が図られている。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	A
	【説明】 地区へ地域清掃実施を呼びかけ、美化清掃に係る費用は、ごみ袋、保険費用のみで実施をしている。	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 地域の主体性を尊重し、支援を行うことで、地域を自分たちで清掃するという意識が高まっていると考える。	
	【理由】 ※総合評価がB、CまたはDの場合のみ記入	
	【今後の方向性】 ※総合評価がB、CまたはDの場合のみ記入	

基礎評価シート(平成29年度実績)

		担当部課等名	都市部 生活環境課					
基本構想	環境と風景が息づくまちづくり		重点的方針	2-1 二宮を知り、二宮に触れ、二宮を体験できる環境づくり				
分野別方針	環境、防災		実施計画事業	地球環境保全事業(No.51)				
予算等事業名	再生可能エネルギー導入の検討							
目的	低炭素社会の実現をめざし、省エネルギー・自然エネルギーの推進を図るため、啓発や支援を行う。また、二宮町の特徴である空気が綺麗で風通しの良い快適な生活環境向上を図るため騒音大気測定や地域美化清掃の推進を図る。							
内容	・再生可能エネルギー導入促進支援策の検討							
根拠法令・条例等								
体制	<input checked="" type="checkbox"/>	町職員実施	<input type="checkbox"/>	一部委託あり	<input type="checkbox"/>	全部委託	<input type="checkbox"/>	その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか									
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している		<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている		<input type="checkbox"/>	③ 未実施		
②、③に対する理由									

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか									
<input checked="" type="checkbox"/>	① 検討できる		<input type="checkbox"/>	② 削減は困難					
理由		今年度で支援策の検討を終えるので、報償費(委員会等出席報償費・講師謝礼)の削減が可能。							

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか									
<input type="checkbox"/>	① 検討できる		<input checked="" type="checkbox"/>	② 効率化は困難					
理由		支援策の検討結果に基づき、支援策の実現、並びにその業務が新たに生じるため							

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)								A
	【説明】 温暖化対策事業化実施研究会により、民間事業者による再生可能エネルギー事業の導入促進に向けた支援策を検討することができている。								

総合評価

実績	温暖化対策事業化実施研究会を3回実施し、本町における民間事業者による再生可能エネルギー事業の導入促進に向けた支援策等について研究を行った。							
中間評価との相違点	平成28年度の地球温暖化対策検討委員会の検討結果を受け、総合戦略のKPI指標を「再生可能エネルギー事業に関する起業支援策の実現数」に変更した。							
事業指標(数値指標)	エネルギー・温暖化対策に関する計画を策定する(100%)							
中期(29年度)目標値	100%			【目標値の根拠または数値で表わせない指標】				
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度	計画策定				
	100%	—		※二宮町地球温暖化対策実行計画の策定 区域施策編の作成は、町民理解のための基盤づくりを優先的に行った上で、再検討することとし、KPIを変更した。				

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		120	90	156	81		
財源内訳	一般財源			156	81		
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他						

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	A
	【説明】 地球温暖化対策の推進に関する法律に基づき策定した「二宮町地球温暖化対策実行計画(事務事業編)」の推進及び再生可能エネルギー事業の導入促進を図るには、一定の公費の投入が不可欠であるため。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	A
	【説明】 「二宮町地球温暖化対策実行計画(事務事業編)」の推進は、地域の模範となって町が主体的に実施する必要があるため。	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	A
	【説明】 「二宮町地球温暖化対策実行計画(事務事業編)」の推進は、推進本部をはじめとする推進体制により取組み全体の8割が実施されている他、策定を先送りとした「二宮町地球温暖化対策実行計画(区域施策編)」についても優先する基盤づくりのための啓発を実施しているため。また、「温暖化対策事業化実施研究会」での研究により、町において導入促進が効果的と考えられる再生可能エネルギー事業支援策が示されたため。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	A
	【説明】 職員が実行計画の策定を行うことで、最低限の費用で評価等を行っているため。	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 推進本部体制の構築により「二宮町地球温暖化対策実行計画(事務事業編)」の推進を図ることができた他、温暖化対策事業化実施研究会による再生可能エネルギー事業の研究により、町に有効な導入促進支援策を研究することができた。	
	【理由】 ※総合評価がB、CまたはDの場合のみ記入	
	【今後の方向性】 ※総合評価がB、CまたはDの場合のみ記入	

基礎評価シート(平成29年度実績)

		担当部課等名	都市部 生活環境課					
基本構想	交通環境と防災対策の向上		重点的方針	3-2 公共施設の総合的マネジメントとコンパクトさを活かした暮らしやすいまちづくり				
分野別方針	自治体経営		実施計画事業	公有財産管理運営事業(No.89)				
予算等事業名	環境衛生センター維持管理経費							
目的	公共施設の適切かつ効果的な管理と再配置、及び、行財政運営の効率化による経費の重点配分。							
内容	・維持・管理							
根拠法令・条例等	—							
体制	<input type="checkbox"/>	町職員実施	<input checked="" type="checkbox"/>	一部委託あり	<input type="checkbox"/>	全部委託	<input type="checkbox"/>	その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか								
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している		<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている		<input type="checkbox"/>	③ 未実施	
②、③に対する理由								

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか								
<input type="checkbox"/>	① 検討できる		<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難				
理由		日々において省エネを意識し、費用を抑えて維持管理している。						

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか								
<input type="checkbox"/>	① 検討できる		<input checked="" type="checkbox"/>	② 効率化は困難				
理由		施設の維持に必要な最低限の管理運営を行っている。						

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)							A
	【説明】 施設は老朽化しているが管理運営は適切に実施できている。							

総合評価

実績	環境衛生センターの適正な運営及び維持管理ができた。							
中間評価との相違点	—							
事業指標(数値指標)	—							
中期(29年度)目標値	—							【目標値の根拠または数値で表わせない指標】
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度	環境衛生センターの適正な運営及び維持管理				
	—	—	—					

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		16,297	12,735	23,702	21,254		
財源内訳	一般財源	16,291	12,729	23,696	21,248		
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他	6	6	6	6		

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	A
	【説明】 環境衛生センターは、廃棄物の処理施設であり、一般廃棄物を処理することは自治体の責務である。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	A
	【説明】 町が主体となって施設の維持管理をする必要がある。	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	A
	【説明】 し尿処理、浸出水処理、持込みごみ受入分別、全体を円滑に管理運営している。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	A
	【説明】 維持管理に必要な経費であり、消耗品の節約や節電等を心がけている。	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 安定した一般廃棄物の処理を行うために施設の維持管理は必要不可欠な事業である。	
	【理由】 ※総合評価がB、CまたはDの場合のみ記入	
	【今後の方向性】 ※総合評価がB、CまたはDの場合のみ記入	

基礎評価シート(平成29年度実績)

		担当部課等名	都市部 生活環境課					
基本構想	戦略的行政運営	重点的方針	3-2 公共施設の総合的なマネジメントとコンパクトさを活かした暮らしやすいまちづくり					
分野別方針	自治体経営	実施計画事業	広域行政推進事業(No.91)					
予算等事業名	ごみ処理広域化の推進							
目的	広域的な行政施策や取組みを必要とする行政課題等の情報交換及び連絡調整を図り、広域行政を推進する。							
内容	・ごみ処理広域化実施計画の推進							
根拠法令・条例等	—							
体制	<input type="checkbox"/>	町職員実施	<input type="checkbox"/>	一部委託あり	<input type="checkbox"/>	全部委託	<input type="checkbox"/>	その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか					
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している		<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている	
<input type="checkbox"/>	③ 未実施				
②、③に対する理由					

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか					
<input checked="" type="checkbox"/>	① 検討できる		<input type="checkbox"/>	② 削減は困難	
理由		ごみ処理広域化の推進にあたり、事務局要員として平塚市への出向職員が必要ですが、繁忙期は2名で対応いたしますが、それ以外は二宮町・大磯町職員の輪番制で検討できる。			

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか					
<input type="checkbox"/>	① 検討できる		<input checked="" type="checkbox"/>	② 効率化は困難	
理由		広域処理の開始や施設稼働に伴い協議を要する案件は減少してきているが、現在、整備中のリサイクルセンターや、運用開始に伴う対応には必要最低限の調整が必要となるため。			

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)				A
	【説明】 広域ブロックによるごみ処理広域化により、広域的な行政施策や行政課題等に対する情報交換及び連絡調整が図られている。				

総合評価

実績	1市2町ごみ処理広域化推進会議(推進会議4回、検討部会3回、連絡会議1回)を開催し、実施計画の推進を行った。				
中間評価との相違点					
事業指標(数値指標)	—				
中期(29年度)目標値	【目標値の根拠または数値で表わせない指標】				
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度	実施計画の推進	
	—	—			

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費							
財源内訳	一般財源						
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他						

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	A
	【説明】 安定的、経済的なごみ処理体制を確立するために必要な事業である。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	A
	【説明】 自治体間による協力が必要である。	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	A
	【説明】 広域処理を行うことにより安定的、経済的なごみ処理が行える。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	A
	【説明】 安定的、経済的なごみ処理体制確立のため、事業推進を行った。	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 広域ブロックによるごみ処理広域化により、広域的な行政施策や行政課題等に対する情報交換及び連絡調整が図られている。	
	【理由】 ※総合評価がB、CまたはDの場合のみ記入	
	【今後の方向性】 ※総合評価がB、CまたはDの場合のみ記入	